



Sun Fire™ X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 819-5190-01
2005 年 11 月、改訂 A

本書に関するコメントは、次の宛先にお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティーソフトウェア（フォントに関するテクノロジーを含む）は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品のの一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire、Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザインターフェイスは、Sun Microsystems, Inc. がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。Sun 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。Sun 社は、Xerox グラフィカルユーザインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する Sun 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は Sun 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利—商用。政府関連のユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗黙的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. has intellectual property rights relating to technology that is described in this document. In particular, and without limitation, these intellectual property rights may include one or more of the U.S. patents listed at <http://www.sun.com/patents> and one or more additional patents or pending patent applications in the U.S. and in other countries.

This document and the product to which it pertains are distributed under licenses restricting their use, copying, distribution, and decompilation. No part of the product or of this document may be reproduced in any form by any means without prior written authorization of Sun and its licensors, if any.

Third-party software, including font technology, is copyrighted and licensed from Sun suppliers.

Parts of the product may be derived from Berkeley BSD systems, licensed from the University of California. UNIX is a registered trademark in the U.S. and in other countries, exclusively licensed through X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Solaris, and Sun Fire are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and in other countries.

All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. in the U.S. and in other countries. Products bearing SPARC trademarks are based upon an architecture developed by Sun Microsystems, Inc.

The OPEN LOOK and Sun™ Graphical User Interface was developed by Sun Microsystems, Inc. for its users and licensees. Sun acknowledges the pioneering efforts of Xerox in researching and developing the concept of visual or graphical user interfaces for the computer industry. Sun holds a non-exclusive license from Xerox to the Xerox Graphical User Interface, which license also covers Sun's licensees who implement OPEN LOOK GUIs and otherwise comply with Sun's written license agreements.

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS" AND ALL EXPRESS OR IMPLIED CONDITIONS, REPRESENTATIONS AND WARRANTIES, INCLUDING ANY IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE OR NON-INFRINGEMENT, ARE DISCLAIMED, EXCEPT TO THE EXTENT THAT SUCH DISCLAIMERS ARE HELD TO BE LEGALLY INVALID.

目次

序章 ix

新機能と最新情報 1

このリリースでの追加ソフトウェア 1

 Solaris 10 3/05 HW1 1

 Sun Java Enterprise System 2

 Sun N1 System Manager 2

サーバーのバージョン 3

ブート可能診断 CD-ROM によるサーバーの問題点の診断 4

ハードウェアの問題 5

 推奨できない光学式マウスおよびキーボード (6299692、6317710、6304725) 5

 Seagate SAS ドライブファームウェアのパフォーマンスが低下 (6239856) 6

 Sun Fire X4200 サーバーにおける Seagate ハードディスクドライブの障害
 (6325427) 6

 ハードディスクドライブの LED が、隣にある LED と紛れやすい (6286872) 7

LSI ファームウェア、サービスプロセッサ、および BIOS の問題 9

LSI ファームウェアの問題 9

 RAID ボリュームにはメタデータ用にディスク容量が必要 (6312581) 9

 パーティション警告が表示されて、RAID 1 ボリュームが作成できない
 (6310074) 10

LSI SCSI BIOS 設定ユーティリティを終了するとシステムがハングする場合がある
(6335493) 10

LSI MPT BIOS でハードドライブの低レベルフォーマット機能を使用できない
(6301350) 11

サービスプロセッサの問題 11

サービスプロセッサで、ハードディスクが取り外された後、イベントのログが書き込まれず、警告も表示されない (6306536) 11

サービスプロセッサと USB のインタラクションにより OS が中断される
(6277725) 12

リセット中に発生するカーネルのエラーによりハングするシステムコンポーネントがある (6295154) 12

ネットワークポートが 10M バイト/秒で作動しない (6302923) 13

システムによる最初の iso イメージマウントができない場合がある
(6276086) 13

リダイレクトした Samsung SN-124 CD-ROM ドライブを使用した OS のインストールが作動しない (6279896) 13

ILOM CLI に不正な ipdiscovery 値が表示される (6291660) 14

ILOM Web GUI ページをキャンセルすると、サービスプロセッサに接続できなくなる (6314314) 14

実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ
(6300437) 15

その他の SNMP の問題 15

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI に不正なしきい値が表示される (6316706) 16

ILOM Web GUI または CLI で、16-文字のパスワードを使用してサービスプロセッサにログインできない (6286187) 16

シリアルポートの速度設定が、CLI セッション終了後 9600bps に戻ってしまう
(6298521) 17

データ転送完了後に、「Transferring data from (データ転送中)」メッセージがブラウザに表示される (6254310) 17

Secure Shell (SSH) セッションまたは Java Remote Console (Java リモートコンソール) で、Break キーが作動しない (6306610) 17

Java Remote Console (Java リモートコンソール) が、外部 CD-ROM リダイレクションの最中にクラッシュする場合がある (6306010) 18

アクセスビリティの問題 18

フロッピーディスクのリダイレクションを再起動すると、Java Remote Console (Java リモートコンソール) がハングする場合がある (6295147) 19

外付けストレージリダイレクションで表示されるエラーメッセージに誤りがある
19

背面ファントレイに不正な名前が使用されている (6323731) 19

シリアルコンソールに SSH でアクセスし、start -script コマンドを使用するとロックする場合がある (6337909) 20

電源コードを引き抜いた後、「BMC Not Responding (BMC が応答しません)」というエラーメッセージが Sun Fire X4200 サーバーに表示される (6338647)
20

BIOS の問題 21

PCI カードにより外付けストレージデバイスに接続されているシステムが、内部ディスクからブートしない場合がある (6268877) 21

Emulex LP10000 カードが有効になっているとシステムがブートアップしない (6306640) 22

システムのブートアップ処理中にサポートされている HBA カードが検出されない (6272514) 22

HBA カードをインストールすると、BIOS 設定のハードディスクドライブの順序が変更される (6308569) 22

最適なデフォルトを変更して保存せずに BIOS をアップグレードするとメモリの待ち時間が増加する場合がある (6306622) 23

システムをリセットすると、不正な CMOS チェックサムが作成される場合がある (6297018) 23

SP ファームウェアのバージョン 6169 以前のをアップグレードすると BIOS アップグレードがエラーになる (6324746) 24

ILOM SP ファームウェアをバージョン 6169 から 6464 にアップグレードすると SP の設定が失われる 24

リセットのテスト後、BIOS のブート順が失われる (6302703) 27

ソフトウェアの問題 29

Solaris 10 オペレーティングシステムの問題 29

ドライブ 2 台のシステムからドライブ 4 台のシステムに移動したドライブは、正しく動作しない場合がある (6300178) 29

一部のホストバスアダプタでは、パッチをインストールする前に Solaris 10 x86 パッチクラスタのインストールが必要 (6312352) 30

- raidctl コマンドを使用できない (6228874) 30
- システムで複数の InfiniBand ホストチャネルアダプタカードを使用していると、Solaris 10 3/05 HW1 のインストールが失敗する可能性がある (6321372) 31
- リモートの CD/DVD-ROM からのインストールがサポートされていない 31
- ブートアップメッセージ: Method or service exit timed out を無視する (6297813) 31
- BIOS 設定メッセージを無視する 32
- X Window サーバーのデフォルトは Xorg である (6321043) 32
- Sun Installation Assistant の問題 32
 - Red Hat Enterprise Linux 4 (RHEL 4) : Security-Enhanced Linux (SELinux) を有効にできない (6288799) 32
 - 正しくない MPT ドライバが Sun Installation Assistant の基盤に含まれている (6319680) 33
 - Red Hat Enterprise Linux 3 または 4 (RHEL 3 または RHEL 4) をインストールした後に Kudzu メッセージを無視する (6290559) 33
 - ext3 ファイルシステムで、Sun Installation Assistant CD を使用して Red Hat Linux をインストールした後にエラーが報告される (6336064) 33
- Linux オペレーティングシステムの問題 34
 - アップデートされたドライバをインストールする前に、QLogic ドライバをアンロードしなければならない場合がある (6312342、6314923) 34
 - トランスレーションルックアサイドバッファ (TLB) をリロードすると、一部の Linux ソフトウェアでエラーが発生 (6296473) 35
 - AMD PowerNow! によって、システムクロックの速度が減少する場合がある (6298500、6281771) 36
 - Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) : USB マスストレージデバイスの初期化中に I/O エラーが表示される (6241851) 36
 - Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) : カーネルでデュアルコアプロセッサに関する誤った CPU 情報が報告される場合がある (6241701) 36
 - Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) のような、ACPI をサポートしていない Linux OS で適切な順序でのシャットダウンができない (6278514) 37
 - 外部 RAID アレイが Ultra320 SCSI を通じてサーバーに接続している場合、Linux OS で重複したデバイスが表示される (6220406) 37
 - Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) U5 (64 ビット) : [Keyboard reset failed (キーボードリセット失敗)] メッセージを無視する (6306118) 37

SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9) 64 ビット版：CPU 速度が誤って報告される (6287519) 38

SUSE Linux Enterprise Server 9：Kirkwood RPM 構築に失敗 (6312670) 38

SUSE Linux Enterprise Server 9：リブートの後、マルチバスドライバが機能しない (6332988) 39

Kirkwood インターフェイスで MTU が 9K に設定されている場合、サーバーが Sun Fire X4100 サーバーをリブートする必要がある (6335741) 39

SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9) 64 ビット版：スロット 0 に接続された、サポートされている HBA カードによってシステムがブートしない (6307424) 39

Windows Server 2003 オペレーティング
システムの問題 40

RAID ボリュームの機能低下によってブートアップ時間に影響が発生 (6297804) 40

RAID が 1 番目のストレージデバイスとして認識されないと、LSI RAID アレイに OS をインストールできない (6297723) 41

再起動コマンドを発行した後に Java Remote Console (Java リモートコンソール) に出力が表示されない (6301444) 41

外部ディスクでの OS のインストールでは、内部ディスクのパーティションが必要 (6238985) 41

AMD PowerNow! 機能が有効な場合、警告 LED および電源障害 LED が点灯する可能性がある (6310814) 42

Windows Server 2003：適切な順序でのシャットダウンと電源オフに失敗 (6293118) 42

ドキュメントの問題 43

ヘルプシステムの問題 43

Mozilla を使用して開いた場合、『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーヘルプ』完全版でスクリプトの中止についてのメッセージが表示される 43

『Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers OS Installation Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』の問題 44

3 つのヘルプ項目で、ドライバイメージファイルの参照先を更新 44

SLES9 ヘルプ項目のコマンドシンタックス更新 45

『*Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers System Management Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよびSun Fire X4200 サーバーシステム管理ガイド)*』の問題
45

SP ファームウェアアップグレードの前にセッションタイムアウトの設定が必要
45

『*Sun Fire X4100 サーバーおよびSun Fire X4200 サーバーセットアップガイド*』の問題
46

新しい埋め込み式電源ボタンのデザイン 46

サーバーの電源オフ方法の更新 46

『*Solaris10 OS プリインストールガイド*』への参照を追加 47

序章

本書では、Sun Fire™ X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関するハードウェアの問題、ソフトウェアの問題、およびドキュメント関連の問題について説明します。

問題には、前提条件、ヒント、トラブルシューティングのヒント、変更リクエストなど、ユーザーが理解する必要のある情報が含まれます。変更リクエストは、問題の一部分です。変更リクエストには追跡番号があります（括弧内に表示）。変更リクエストのアップデートおよびパッチについては、SunSolveSM ウェブサイト (<http://sunsolve.sun.com>) を参照してください。

UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX[®] コマンドや、システムのシャットダウンやブート、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていません。このような情報については、次のマニュアルを参照してください。

- システムに付属のソフトウェアマニュアル
- 『Solaris™ Operating System documentation (Solaris™ オペレーティングシステムマニュアル)』（以下を参照してください)

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザー	#

表記

フォント*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力	.login ファイルを変更します。 すべてのファイルをリストするには、 ls -a を使います。 % You have mail.
AaBbCc123	画面上のコンピュータ出力に対してユーザーが入力する内容	% su Password:
AaBbCc123	マニュアルのタイトル、新しい用語、強調する用語。実際の名称や値に置き換えるコマンド行の変数。	『ユーザーガイド』の第 6 章をお読みください。 これらは <i>class</i> オプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <i>ファイル名</i> を入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

Sun Fire X4100 サーバーに関する最新情報については、次のウェブサイトを参照してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/x4100/index.html

Sun Fire X4200 サーバーに関する最新情報については、次のウェブサイトを参照してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/x4200/index.html

これらのドキュメントの一部については、上記に記載されたウェブサイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、日本語、韓国語、ドイツ語の翻訳版が入手可能です。

英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が掲載されています。

内容	タイトルと形式	部品番号
安全上の注意	『 <i>Important Safety Information for Sun Hardware Systems</i> (Sun ハードウェア安全上の注意)』 (システムボックス内)	816-7190
安全上の注意と海外適合認証 ステートメント	『 <i>Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Safety and Compliance Guide</i> (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー安全の手引き)』 (HTML、PDF)	819-1161
ラックへの取り付けを含む サーバーセットアップ	『 <i>Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーセットアップガイド</i> 』 (システムボックス内、HTML)	819-4993-01
サーバーのセットアップ、 保守、およびユーザーの 情報	『 <i>Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーセットアップおよび保守ガイド</i> 』 (HTML、PDF)	819-5450-10
オペレーティングシステム のインストール	『 <i>Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers Operating System Installation Guide</i> (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』 (HTML、PDF)	819-1158
ブリインストールされた Solaris OS に関する手順	『 <i>Solaris 10 OS ブリインストール Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーガイド</i> 』	819-5373-01

内容	タイトルと形式	部品番号
システム管理	『 <i>Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers System Management Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーシステム管理ガイド)</i> 』 (HTML、PDF)	819-1160
トラブルシューティング および診断	『 <i>Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Troubleshooting Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 トラブルシューティングガイド)</i> 』 (HTML、PDF)	819-3284
最新情報および既知の問題	『 <i>Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーリリースノート</i> 』 (HTML、PDF) (本書)	819-5190-01

製品のアップデート

Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関してダウンロードできる製品アップデートについては、次のウェブサイトの [Downloads (ダウンロード)] リンクを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/entry/x4100/index.html>

<http://www.sun.com/servers/entry/x4200/index.html>

Sun ドキュメントへのアクセス

翻訳版も含めた広範囲な Sun ドキュメントを、次のサイトで表示、印刷、購入できます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun テクニカルサポートの連絡先

Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関して、本書に記載されていないテクニカルなご質問がある場合は、次のサイトをご利用ください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

[Knowledgebase (ナレッジベース)] へのリンクは、[Support (サポート)] メニューにあります。

Sun テクニカルサポートへのご連絡前に、次の情報をご確認ください。これにより、問題を解決するための最大のご支援が可能になります。

- 問題の内容（問題が発生した状況、操作への影響など）
- コンピュータの種類、オペレーティングシステムのバージョン、製品のバージョン（パッチや問題に影響を及ぼしている可能性のある他のソフトウェアを含む）
- 問題を再現する際に使用した方法の詳細手順
- エラーログまたはコアダンプ

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心掛けており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。Sun 社へのフィードバックには、次のウェブベースのフォームをご利用ください。

<http://www.sun.com/secure/products-n-solutions/hardware/docs/feedback/>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。

Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーリリースノート
部品番号 819-5190-01

サードパーティーのウェブサイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーのウェブサイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社のウェブサイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際のまたは疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

新機能と最新情報

本章では、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの新機能と最新情報に関する概要を説明します。

このリリースでの追加ソフトウェア

次のソフトウェアは、すべての Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに付属しています。

- Solaris™ 10 3/05 HW1
- Sun Java™ Enterprise System (Java ES) 2005Q1 (90 日間評価版)
- Sun™ N1 System Manager 1.1 (90 日間評価版) (入手可能な場合のみ)

Solaris 10 3/05 HW1

Solaris 10 オペレーティングシステムは、IT プロフェッショナルが求めるセキュリティ、管理の容易性、およびパフォーマンスを実現し、これによりサービスレベルの向上とコストおよびリスクの削減が可能です。また、Sun Java Enterprise System の基礎コンポーネントとしても機能します。Sun Java Enterprise System は、予測可能な新しいアプローチを使って開発、テスト、およびサービス提供を行う、統合されたオープンな標準ベースのソフトウェアシステムです。

Solaris 10 3/05 HW1 OS を削除した後に再インストールする場合は、CD または DVD イメージをダウンロードできます。

- CD イメージをダウンロードする場合は、次のウェブサイトを参照してください。

<http://javashopl1m.sun.com/ECom/docs/Welcome.jsp\StoreId=8&PartDetailId=Sol110-hw1-x86-G-F&TransactionId=try>

- DVD イメージをダウンロードする場合は、次のウェブサイトを参照してください。

<http://javashopl1m.sun.com/ECom/docs/Welcome.jsp\StoreId=8&PartDetailId=Sol110-hw1-x86-DVD-G-F&TransactionId=try>

Solaris 10 および Solaris 10 3/05 HW1 のオンラインドキュメントについては、次のウェブサイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/coll/1236.1>

Sun Java Enterprise System

Sun Java Enterprise System (Java ES) は、ネットワークまたはインターネット環境を通じて配布される企業規模のアプリケーションをサポートするのに必要なサービスを実現する一連のソフトウェアコンポーネントです。

Java ES のオンラインドキュメントについては、次のウェブサイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q1>

Sun N1 System Manager

Sun N1 System Manager は、何百ものシステムを管理する機敏性を持つ一方で、管理者がコストを削減し、管理の複雑さを軽減するのに役立つ集約されたシステムマネージャーです。N1 System Manager ソフトウェアを使用すると、管理者は、1 から何百もの Sun システムの検出、供給、パッチ、監視、および管理を行うことができます。N1 System Manager ソフトウェアの利点には、集中管理方式のインタラクティブな使いやすいブラウザとコマンドラインインターフェイス (CLI) があり、これにより管理者は、単一のシステムまたはシステムのグループに対してすばやく正確な変更を行うことができます。

Sun N1 System Manager 1.1 のオンラインドキュメントについては、次のウェブサイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/coll/1283.2>

詳細については、次のウェブサイトを参照してください。

http://www.sun.com/software/products/system_manager

サーバーのバージョン

Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーは、多数のバージョンがリリースされています。マザーボード、BIOS、およびファームウェアの変更により、バージョン間で互換性のないコンポーネントが多数あります。たとえば、CPU ステッピングバージョンを混合することはできません。

シャーシの部品番号 (PN) は、サーバーの前面パネル (DVD-ROM / ディスケットドライブアセンブリの近く) に付いています。

表 1 に Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの設定を示します。

表 1 サーバーリリースに対して使用可能なコンポーネント

コンポーネント名	Sun Fire X4100 サーバーのバージョン	Sun Fire X4200 サーバーのバージョン
サービスプロセッサ	6169	6169
BIOS	0ABGA022	0ABGA022
LSI ファームウェア	fw1.04.00-bios6.02.0A	fw1.04.00-bios6.02.0A
マザーボード	501-7261	501-6974

ブート可能診断 CD-ROM によるサーバーの問題点の診断

サーバーには、Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers Bootable Diagnostics CD-ROM (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーブート可能診断 CD-ROM) (705-1439) が付属しています。この CD-ROM は、CD-ROM の Solaris オペレーティングシステムを使用してサーバーがブートされ、SunVTS ソフトウェアが開始されるように設計されています。診断テストが実行されてログファイルが出力され、サービス技術者は、このログファイルを使用してサーバーの問題点を判断できます。

要件

- SunVTS 6.0 の診断能力を最大限に引き出すには、SunVTS 6.0 Patch Set 3 をインストールする必要があります。次のいずれかの URL から Patch Set3 をダウンロードしてください。

<http://www.sun.com/servers/entry/x4100/downloads.html>

<http://www.sun.com/servers/entry/x4200/downloads.html>

- Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers Bootable Diagnostics CD (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーブート可能診断 CD) を使用するには、診断を実行するサーバーにキーボード、マウス、およびモニタを装着する必要があります。

ハードウェアの問題

本章では、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関するハードウェアの問題について説明します。

ご参考： 問題の記述において特定のプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに該当します。

推奨できない光学式マウスおよびキーボード (6299692、6317710、6304725)

次に示す Sun の光学式マウスは、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーでの使用はお勧めできません。

- Type 5c
- Type 6c

次に示す 2 種類のキーボードは、Sun Fire X4200 サーバーの前面一番下の USB ポートでの使用はお勧めできません。

- Microsoft Digital Media Pro キーボード
- Belkin キーボード

Seagate SAS ドライブファームウェアのパフォーマンスが低下 (6239856)

Seagate シリアル接続 SCSI (SAS) ハードディスクドライブは、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーで使用するとパフォーマンスの低下することが確認されています。この問題は、Seagate ファームウェアの問題に根本原因がありました。

対処方法

今の時点では、対処法はありません。Seagate はファームウェアのバージョン 0556 でこの問題を訂正する予定ですが、それまでは Seagate ドライブは該当するサーバーの初回製品リリースには同梱されません。

Sun Fire X4200 サーバーにおける Seagate ハードディスクドライブの障害 (6325427)

初期の評価版システムに備えられたハードディスクドライブは、オペレーティングシステムをインストールするなど、2 週間程度軽く使用しただけで障害を起こし、BIOS POST または Solaris オペレーティングシステムから認識できなくなりました。問題となったドライブは次のとおりです。

Seagate Savvio 10K RPM 72 GB

モデル番号：ST973401SS (Seagate) または ST973401LSUN72G (Sun)

部品番号：9Y4066-134 (Seagate) または 390-0213-02 (Sun) または 541-0323-01 (Sun)

シリアル番号：3LB04CBL (Seagate) または 0440772-0518104CBL (Sun)

対処方法

今の時点では、対処法はありません。現在、根本原因の究明中です。

ハードディスクドライブの LED が、隣にある LED と紛れやすい (6286872)

ハードディスクドライブの動作 LED が点滅している時、隣にある障害 LED が点滅しているように見える場合があります。これは LED ライトパイプの相互接続に起因します。

対処方法

今の時点では、対処法はありません。LED ライトパイプの再設計中であり、該当するサーバーの初期リリース以後この問題は出荷前に解決される予定です。

LSI ファームウェア、サービスプロセッサ、および BIOS の問題

本章では、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関する LSI ファームウェア、Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ、および BIOS の問題について説明します。次の項目を扱います。

- 「LSI ファームウェアの問題」 (9 ページ)
 - 「サービスプロセッサの問題」 (11 ページ)
 - 「BIOS の問題」 (21 ページ)
-

ご参考： 問題の記述において特定のプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに該当します。

LSI ファームウェアの問題

RAID ボリュームにはメタデータ用にディスク容量が必要 (6312581)

RAID ボリュームを作成するには、ファームウェアと BIOS によりハードディスクドライブ (HDD) の最後にメタデータを書き込む必要があります。このため、少なくとも 64M バイトのパーティション分けしていないディスク容量がメタデータ用に必要です。

パーティション警告が表示されて、RAID 1 ボリュームが作成できない (6310074)

LSI BIOS設定ユーティリティを使用している場合、既存のデータをマイグレートしてRAID ボリュームを作成しようとすると、次の警告が表示される場合があります。

The selected disk contains partitions that may not be preserved when creating an array. (選択したディスクには、アレイ作成時に保存されない可能性のあるパーティションがあります。) This data may be lost when the array is created! (アレイが作成されると、このデータは失われるかもしれません。) If you would still like to use this disk in an array, choose the Erase Disk option on the previous menu by pressing Delete (D). (それでもこのディスクをアレイに使用する場合は、Delete (D) を押して前のメニューにある [Erase Disk (ディスク消去)] オプションを選択してください。)

警告の指示に従って [Erase Disk (ディスク消去)] オプションを選択しても、RAID ボリュームは作成されず再度警告が表示されます。

これは、ユーティリティが新しい Solaris x86 タイプのディスクパーティションを認識できないためです。この問題は、次にリリースされる LSI MPTBIOS のバージョン 1.06 で解決される予定です。

対処方法

fdisk ユーティリティを使用し、コマンドラインまたはフォーマット内のいずれかから、メニューアイテム 4 を選びます。

Change between Solaris and Solaris2 Partition IDs
(Solaris と Solaris2 間のパーティション ID 変更)

これにより、Solaris2 ID は Solaris1 ID (0x82) に変更されます。

LSI SCSI BIOS 設定ユーティリティを終了するとシステムがハングする場合があります (6335493)

Ctrl+C キーを押して、システムのブートアップ中に LSI SCSI BIOS 設定ユーティリティを立ち上げ、次にこのユーティリティを終了すると、システムがハングすることがあります。この問題は、新しいシステムを初めてブートアップする時のみ発生しています。

対処方法

サーバーの電源切断再投入には、電源ボタンを使用します。

1. 先の尖ったものを使用してサーバーの前面パネルにある電源ボタンを4秒間押し、主電源をシャットダウンします。
主電源がオフになりサーバーがスタンバイモードになると、前面パネルにある電源 / OK LED が点滅します。
2. サーバーを主電源モードに戻すには、先の尖ったもので電源ボタンを押します。

LSI MPT BIOS でハードドライブの低レベルフォーマット機能が使用できない (6301350)

LSI MPT BIOS のバージョン 6.02 は、現時点では低レベルフォーマット機能に対応していません。この機能は、次回の LSI MPT BIOS リリースでサポートされる予定です。

対処方法

今の時点では、対処法はありません。LSI ファームウェアの次回のリリースであるバージョン 1.06 で、この問題は解決される予定です。

サービスプロセッサの問題

サービスプロセッサで、ハードディスクが取り外された後、イベントのログが書き込まれず、警告も表示されない (6306536)

ハードディスクをシステムから取り外すと、サービスプロセッサはログへのイベントの書き込みを行わず、警告も表示しません。これは、ディスクドライブがホットプラグの場合サービスプロセッサは LSI SAS コントローラからイベントを受信せず、警告も発生しないことから、予測される現象です。

サービスプロセッサと USB のインタラクションにより OS が中断される (6277725)

サービスプロセッサのリセット方法は複数あります。例：

- ILOM Web GUI の [Reset SP (リセット SP)] タブを使用
- ILOM CLI の `Reset SP` (リセット SP) コマンドを使用
- IPMI ツールコマンド `IPMI_MC_RESET_COLD` を使用
- リモートマウスのエミュレーションモード変更の副次的効果を利用

これらの方法の中には、サービスプロセッサとシステムの間で起動する USB プラグイベント/アンプラグイベントによりシステムの中断やハングを起こす場合があります。

対処方法

サービスプロセッサを確実にリセットし、USB イベントによりシステムがハングしないようにするには、OS の USB サポートを最小またはなしに設定します。

サービスプロセッサのリセット中はシステムをリブートしないでください。リブートすると、システムがハングする場合があります。あるいは、ブートする前にマウスモードを適切な状態に変更します。

システムがオフまたはリセット状態にある時のみサービスプロセッサをリセットするようにスケジュールしておくこと、サービスプロセッサとシステムのインタラクションを防げます。

リセット中に発生するカーネルのエラーによりハングするシステムコンポーネントがある (6295154)

サービスプロセッサのリセット中、フラッシングまたはマウスモードの変更中などに、SP カーネルエラーが発生する場合があります。このエラーが起きてもサービスプロセッサはアクセス可能ですが、シリアルログイン、SSH、Web GUI、および CLI サービスはハングします。

対処方法

残された機能を使ってシステムをリセットするか、またはシステムの電源をオフにしてリセットします。

ネットワークポートが 10M バイト／秒で作動しない (6302923)

サービスプロセッサのイーサネットポートが 100M バイト／秒でしか作動しません。10 M バイト／秒では作動しません。

システムによる最初の iso イメージマウントができ ない場合がある (6276086)

ILOM Web GUI を使用して RHEL または SUSE Linux ディストリビューションをインストールしている時、iso イメージをアンマウントしてから新しいイメージをマウントしようとする、最初に新しいイメージを読み込もうとした時に障害が起きる場合があります。

対処方法

新しいイメージを再度マウントします。2 度目には正常にマウントされるはずです。

リダイレクトした Samsung SN-124 CD-ROM ドライブ を使用した OS のインストールが作動しない (6279896)

Java Remote Console (Java リモートコンソール) を使用して Samsung SN-124 CD-ROM ドライブからオペレーティングシステム (OS) をインストールしようとする、仮想 CD-ROM ドライブが認識されないことがあります。

対処方法

他のデバイスからリダイレクトされたイメージファイルを使用して OS をインストールします。

ILOM CLI に不正な ipdiscovery 値が表示される (6291660)

ILOM コマンドラインインターフェイス (CLI) では、/SP/network ipdiscovery に有効な設定は static と dhcp であり、Static と DHCP は、commitpending を true と設定した後に示されるように、有効ではありません。

ILOM Web GUI ページをキャンセルすると、サービスプロセッサに接続できなくなる (6314314)

Sun ILOM Web GUI を使用している時、次の動作をするとサービスプロセッサに接続できない場合があります。

1. **[Maintenance (保守)]** タブをクリック
2. **[Enter Upgrade Mode (アップグレードモードに入る)]** をクリック
3. プロンプトに対して **[OK]** をクリック
4. 次のページが表示された時に **[Cancel (キャンセル)]** をクリック

接続が切れる前に次のメッセージが表示されることがあります。

Access Error (アクセスエラー): Device Firmware is being Upgraded.
(デバイスのファームウェアがアップグレード中です。)
Try again. (再度実行してください。)

対処方法

接続が切れる前に再度実行するか、アップグレードモードのオペレーションタイムアウトまで待ちます。

実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ (6300437)

次のトラップは現在サポートされていません。

- SUN-PLATFORM-MIB
 - sunPlatObjectCreation
 - sunPlatObjectDeletion
 - sunPlatCommunicationsAlarm
 - sunPlatEnvironmentalAlarm
 - sunPlatEquipmentAlarm
 - sunPlatProcessingErrorAlarm
 - sunPlatStateChange
 - sunPlatAttributeChangeInteger
 - sunPlatAttributeChangeString
 - sunPlatAttributeChangeOID
 - sunPlatQualityOfServiceAlarm
 - sunPlatIndeterminateAlarm
- ENTITY-MIB
 - entConfigChange
- SNMPv2-MIB
 - coldStart
 - warmStart
 - authenticationFailure

その他の SNMP の問題

次の SNMP の問題には限界があることが知られています。

- SNMP エージェントは現在、Entity MIB および Sun Platform MIB で SET を扱いません。このため、SET を含む準拠確認テストはエラーになります。必要なタスクを実行するには、他のサービスを利用してください。(6255301)
- SNMP ユーザーが削除されている時のエラーメッセージが明確ではありません。たとえば、ある動作の直後にユーザーが削除されている場合、「Target cannot be deleted (ターゲットは削除できません)」というメッセージが表示されます。通常、これらのコマンドは無視してかまいません。ただし、スクリプトされたコマンドは正常終了しない場合があります。(6284706)
- 複数の接続があると、それに対応して SNMP エージェントが停止します。この場合、SNMP またはシステムをリポートする必要があります。(6290651)
- ユーザーが追加されると、エラーメッセージが表示されます。たとえば、「SNMP agent not up yet, may be reconfiguring (SNMP エージェントがブートしていません。再設定中の場合があります)」というメッセージが表示されます。通常、このメッセージは無視してかまいません。(6292473)

- sysUpTime の値が不正である場合があります。たとえば、数日前に組み立てられたシステムの連続稼働時間が 51 日間と表示されることがあります。これらの値は無視してかまいません。(6295609)
- CLIを使用してコミュニティ最大数を設定すると、SNMPエージェントが切断されシステムのレポートが必要になる場合があります。(6316403)

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI に不正なしきい値が表示される (6316706)

ILOM Web GUI に、たとえば温度センサなどの値について、不正なしきい値が表示されません。ILOM はまた、しきい値のないセンサについてランダムな値を表示することもあります。

ILOM Web GUI または CLI で、16-文字のパスワードを使用してサービスプロセッサにログインできない (6286187)

パスワードの文字数がちょうど 16 文字の場合、ILOM Web GUI または CLI を使用してサービスプロセッサ (SP) にログインできません。

対処方法

16 文字より少ない文字数のパスワードを選んでください。

シリアルポートの速度設定が、CLI セッション終了後 9600bps に戻ってしまう (6298521)

CLI セッションを終了すると、シリアルポートの速度が 9600bps にリセットされます。このため、シリアルポートの速度が 9600bps 以外の値に設定されていた場合、CLI セッションを終了後ポートが作動しなくなる場合があります。この動作は、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーのシリアル管理ポートに接続している場合のみ発生します。

対処方法

シリアル管理ポートの速度は、常に 9600bps に保ってください。

データ転送完了後に、「Transferring data from (データ転送中)」メッセージがブラウザに表示される (6254310)

Mozilla™ ブラウザを使用している場合、転送が完了していてもステータスエリアに「Transferring data from (データ転送中)」メッセージが表示される場合があります。これはブラウザの問題であり、Sun ILOM ソフトウェアの問題ではありません。このバグの詳細については、次を参照してください。

https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=185547.

Secure Shell (SSH) セッションまたは Java Remote Console (Java リモートコンソール) で、Break キーが作動しない (6306610)

Break (ブレーク) は、システムのシリアルポートにはシリアル管理ポートからしか転送されません。SSH セッション、または Java Remote Console (Java リモートコンソール) からを入力しても、Break キーは作動しません。

Java Remote Console (Java リモートコンソール) が、外部 CD-ROM リダイレクションの最中にクラッシュする場合がある (6306010)

Java Remote Console (Java リモートコンソール) は、ホストとリモートクライアントの両方で RHEL 4 U1 (64 ビット) を稼働しながら外部 CD-ROM をリモートクライアントにリダイレクトすると、クラッシュする場合があります。

アクセシビリティの問題

アクセシビリティとは、障害のある人々の、サービスや商品、情報の利用など生活上の多くの行動への参加を制限してしまう可能性のある障壁を取り除くことをいいます。より多くのユーザーに便宜を図るだけでなく、合衆国連邦リハビリテーション法 508 条に基づくすべての現行の連邦契約の必要条件でもあります。商業の分野では、アメリカ障害者法 (ADA) により、現在および将来にわたり従業員に適切な便宜を図る上で同様な配慮が求められています。

Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーは、508 条のアクセシビリティ要求に適合しています。ただし、SP ファームウェア GUI では、アクセシビリティに関する次の問題が確認されています。

- フォーカスが低レベルのタブメニューにあると、Tab キーが高レベルを検索しません。この問題は、Mozilla Firefox で確認されています。(6316639)
- JavaScript™ 警告および GUI の確認ボックスには一般的なメニュータイトルがつけられ、内容についての十分な説明がありません。(6274918)
- Mozilla では、トップレベルのフレームにタブをつけることができません。Mozilla に語句を入力して対応する項目を検索する機能は、一部作動します。フレームはハイライト表示されますが、ボタンなどのアクションアイテムはハイライト表示されません。(6278273)
- [Select Action (動作を選択)] プルダウンリストで下向き矢印を押すと、フォーカスを動かしてリセットできます。下向き矢印を使用してリストの残り部分をスクロールすることはできません。この問題は、Internet Explorer で確認されています。(6316634)
- [Add User (ユーザーを追加)] ポップアップメニューの [Add (追加)] ボタンにタブで移動して Enter キーを押すと、ユーザーエントリを追加せずにページが終了します。この問題は、Internet Explorer で確認されています。(6316625)
- Tab キーを押しても、フォーカスは選択されたタブの中で低レベルのタブに移動しません。(6245789)
- Internet Explorer で Tab キーを押しても、選択されていないラジオボタンにはフォーカスが移動しません。また、ラジオボタンを選択していると、キーボードからはその選択解除ができません。(6316591)
- Internet Explorer で Tab キーを押しても、GUI にあるチェックボックスにはフォーカスが移動しません。(6316621)

- ページの中には、支援技術では読み取れないJavaScriptリンクで検索を行うものがあります。(6255423)

フロッピーディスクのリダイレクションを再起動すると、Java Remote Console (Java リモートコンソール) がハングする場合があります (6295147)

仮想デバイスで稼働していると、Java Remote Console (Java リモートコンソール) はハングすることがあります。

対処方法

Java Remote Console (Java リモートコンソール) を切断してから再起動します。

外付けストレージリダイレクションで表示されるエラーメッセージに誤りがある

Java Remote Console (Java リモートコンソール) を ILOM Web GUI から起動して、リモートストレージデバイスを Sun Fire X4100 サーバーまたは Sun Fire X4200 サーバーにリダイレクトすることができます ([Remote Console (リモートコンソール)] -> [Redirection (リダイレクション)])。ILOM にはこの機能があるため、オペレーティングシステムは、リダイレクトされている USB ストレージデバイスを、常に接続されているものとして表示することがあります。

ただし、リダイレクションが無効な場合、これらのデバイスにアクセスしようとする、「Drive not ready (ドライブの準備ができていません。)」または「No media found (メディアが見つかりません。)」のどちらかのメッセージが表示される場合があります。ストレージのリダイレクションを開始または停止しても、仮想デバイスそのものを追加または削除するわけではありませんが、それら仮想デバイスにあるメディアだけに影響します。

背面ファントレイに不正な名前が使用されている (6323731)

内部ソフトウェアで、Sun Fire X4200 サーバーの背面ファントレイを参照するのに io.f0 (入出力ファン0) という名前が誤って使用されています。正しい名前は FT2 です。

シリアルコンソールに SSH でアクセスし、 start -script コマンドを使用するとロックする 場合がある (6337909)

SSH 経由で SP CLI モードに接続している時に、SP コンソールに start -script コマンドでログインすると、シリアルコンソール接続が断続的にロックすることが確認されています。現在、根本原因の究明中です。

対処方法

SP コンソールに接続するには、start -script コマンドではなく SP start console コマンドを使用してください。

シリアルコンソール接続がロックしたら、SSH セッションを終了してから SP start console コマンドを使用して再度接続を試みてください。

電源コードを引き抜いた後、「BMC Not Responding (BMC が応答しません)」というエラーメッセージが Sun Fire X4200 サーバーに表示される (6338647)

まれに、Sun Fire X4200 サーバーで電源コードを引き抜いた後もう一度サーバーに差し込むと、「BMC Not Responding (BMC が応答しません)」というエラーメッセージが表示されることがありました。

対処方法

今の時点では、対処法はありません。根本原因の究明中です。

BIOS の問題

PCI カードにより外付けストレージデバイスに接続されているシステムが、内部ディスクからブートしない場合がある (6268877)

スロット 0 に差し込まれた PCI カードのみに接続されている外付けストレージデバイスがあると、システムは内部ディスクからブートしません。これは、BIOS が埋め込み式 1064 SAS コントローラをスキャンする前にスロット 0 をスキャンするためで、スロット 0 はハードディスクドライブ (HDD) に接続されています。

BIOS は PCI デバイスを昇順 (低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ) でスキャンします。スキャンの優先順位は次のとおりです。

1. NIC
2. スロット 0
3. SAS
4. スロット 2
5. スロット 3
6. スロット 4
7. スロット 1

埋め込み式 SAS に接続された HDD は、オプションの ROM の制約により、PCI カードがスロット 0 にインストールされているとブートリストに入らない場合があります。スロット 0 は外付け HDD に接続されているものです。

外付けストレージデバイスに接続したい場合は、PCI カードをスロット 0 ではなくスロット 1～4 に接続します。外付けストレージデバイスからブートしたい場合に使用できないのは、スロット 0 のみです。

対処方法

PCI カードを、スロット 0 ではなくスロット 1～4 にインストールしてください。

Emulex LP10000 カードが有効になっているとシステムがブートアップしない (6306640)

Emulex LP10000 カードがシステムのどこかのスロットに差し込まれていてその BIOS が有効な場合、システムはブートアップしません。

対処方法

システムをブートアップするには、Emulex LP10000 BIOS を無効にしてください。

システムのブートアップ処理中にサポートされている HBA カードが検出されない (6272514)

サポートされているホストバスアダプタ (HBA) カードがスロット 1 (Sun Fire X4100 サーバーの場合) またはスロット 1～4 (Sun Fire X4200 サーバーの場合) に差し込まれていると、カードはブートアップ処理中 BIOS によって検出されません。BIOS は、ネットワークインターフェイスカードと SAS をスキャンした後ではオプションの ROM のためのアドレス容量を使い切っており、カードをスキャンできません。ただし、カードは OS レベルで検出されており、引き続き使用できます。

対処方法

外付けストレージデバイスからシステムをブートするには、スロット 0 にインストールされたサポートされている HBA コントローラにデバイスを接続します。

HBA カードをインストールすると、BIOS 設定のハードディスクドライブの順序が変更される (6308569)

サポートされているホストバスアダプタ (HBA) カードをインストールすると、ドライブの順序が変更されるためシステムを OS レベルまでブートできなくなる場合があります。

対処方法

外付けストレージデバイスに接続された、サポートされている HBA カードをインストールまたは取り外した後、BIOS 設定のブート順がシステム設定に従って正しく設定されているかを確認します。

最適なデフォルトを変更して保存せずに BIOS をアップグレードするとメモリの待ち時間が増加する場合がある (6306622)

BIOS イメージをアップグレードし、最適なデフォルトを変更せず設定の保存も行わないと、メモリの待ち時間が増加することがあります。これはオペレーティングシステム特有の問題ではありません。

対処方法

BIOS 設定ユーティリティを使用して BIOS をアップグレードした後、次の操作を行います。

1. 矢印キーを使って、[Exit (終了)] メニューの [Load Optimal Defaults (最適なデフォルトをロード)] を選びます。
2. Enter キーを押して次の画面に進みます。
3. 最適なデフォルトをロードするよう指示されたら Enter キーを押します。
4. [Save Changes (変更を保存)] と [Exit (終了)] を選び、Enter キーを押します。
5. 設定の変更を保存するかを問うプロンプトに対して Enter キーを押し、ユーティリティを終了します。

システムをリセットすると、不正な CMOS チェックサムが作成される場合がある (6297018)

システムがブートされるたびに、BIOS はチェックサム領域内で CMOS データを再計算し、そのデータと保存された値を照らし合わせてチェックします。2つの値が一致しないと、エラーメッセージが生成されて CMOS メモリの内容が破損した可能性があることを知らせます。システムが CMOS データを書き込む時間とチェックサムを書き込む時間にはずれがあります。このため、この時間のずれの間にシステムがリセットされると、不正な CMOS チェックサムが作成されます。

対処方法

「最適なデフォルトを変更して保存せずに BIOS をアップグレードするとメモリの待ち時間が増加する場合がある (6306622)」(23 ページ)に記載されているように、最適なデフォルトをロードします。

SP ファームウェアのバージョン 6169 以前のものをアップグレードすると BIOS アップグレードがエラーになる (6324746)

バージョン 6169 より古いバージョンの SP ファームウェアをいまだに搭載しているリリース前のサーバーで SP ファームウェアおよび BIOS をアップグレードしようとする、FRU データが破損します。この問題は、リリース時に出荷されたサーバー (BIOS バージョン 6464) では修正されています。

ファームウェアのバージョンを確認する方法については、「ILOM SP ファームウェアをバージョン 6169 から 6464 にアップグレードすると SP の設定が失われる」(24 ページ) に説明されている手順を参照してください。

対処方法

バージョン 6169 以前の SP ファームウェアを搭載した Beta または Early Access を使用している場合、GRASP (Graphics Redirect and Service Processor) 基板を工場ですべて再プログラミングする必要があります。Sun のサービス担当者にお問い合わせください。

ILOM SP ファームウェアをバージョン 6169 から 6464 にアップグレードすると SP の設定が失われる

Early Access システムは ILOM SP ファームウェアのバージョン 6169 を搭載している場合があります。製品リリースのファームウェアバージョンは 6464 です。

ファームウェアのバージョンを 6169 から 6464 にアップグレードすると、SP の設定が失われるので、再設定する必要があります。失われる内容には、SP で設定した次のものが含まれます。

- root ユーザー ID 用デフォルトのパスワード (changeme) の変更
- 追加されたすべてのユーザー
- SNMP、警告、LDAP、NTP のすべての設定、およびネットワーク設定 (たとえば静的 IP アドレスなど)

ILOM SP ファームウェアのビルドバージョンは、ILOM Command Language Interface (CLI) または ILOM Web GUI を使用してサーバー上で確認できます。CLI には、サーバー背面の管理イーサネットポートまたはシリアルポートからアクセスできます。

ファームウェアのバージョンを確認するその他の方法については、次の手順を参照してください。

管理イーサネットポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法

1. RJ-45イーサネットケーブルを後面パネルのNET MGTイーサネットポートに接続します。
2. 次のコマンドにより SSH 接続を確立し、プロンプトに対してデフォルトのパスワード (changeme) を入力します。

```
# ssh -l root <SP IP アドレス>
```

```
changeme
```

正常にログインできると、SP からデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

```
->
```

3. version コマンドを入力します。これは次のような出力を返します。

```
-> Version
```

```
SP firmware version: 1.0
```

```
SP firmware build number: 6464
```

```
SP firmware date:Tue Sep 13 12:50:37 PDT 2005
```

```
SP filesystem version: 0.1.13
```

ILOM ファームウェアのビルドバージョンは、上記の「build number (ビルド番号)」です。

シリアルポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法

1. 端末デバイス、またはラップトップか PC で稼働しているターミナルエミュレーションソフトウェアを次のように設定します。

- 8N1：データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
- 9600 ボー
- ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
- ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)

2. サーバーの後面パネルにある RJ-45 SER MGP ポートからのびているシリアルケーブルを、端末デバイスまたは PC に接続します。

3. その端末デバイスの上で Enter キーを押して、その端末デバイスとサーバーの SP の間で接続を確立します。

SP からログインのプロンプトが表示されます。

```
SUNSP0003BA84D777 login:
```

この例のログインプロンプトでは、0003BA84D777 が SP のイーサネット MAC アドレスです。このアドレスは各サーバーによって異なります。

4. ILOM SP にログインして、デフォルトのユーザー名 (root) とデフォルトのパスワード (changeme) を入力します。

正常にログインできると、SP からデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

5. version コマンドを入力します。これは次のような出力を返します。

```
-> version
```

```
SP firmware version: 1.0
```

```
SP firmware build number: 6464
```

```
SP firmware date:Tue Sep 13 12:50:37 PDT 2005
```

```
SP filesystem version: 0.1.13
```

ILOM ファームウェアのビルドバージョンは、上記の「build number (ビルド番号)」です。

Web GUI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法

1. [ブラウザの URL] フィールドにサーバーの SP の IP アドレスを入力して、ILOM Web GUI に接続します。例：

```
https://129.146.53.150
```

2. ILOM SP にログインして、デフォルトのユーザー名 (root) とデフォルトのパスワード (changeme) を入力します。

最初に表示されるウェブページは、[System Information (システム情報)] -> [Versions (バージョン)] で、ここにビルド番号が含まれます。

ご参考： Bata システムを使用している場合、その ILOM SP ファームウェアバージョンは 6169 より以前のものである場合があります。GRASP 基板を工場ですべて再プログラミングする必要があります。「SP ファームウェアのバージョン 6169 以前のをアップグレードすると BIOS アップグレードがエラーになる (6324746)」(24 ページ) も参照してください。

リセットのテスト後、BIOS のブート順が失われる (6302703)

システムをリセットして、ブート処理の始めに実行される BIOS の自己診断テスト (POST) を中断すると、システムのブート順から仮想 USB デバイスが失われ、ドライブからのブートが停止します。BIOS は POST 中にいくつかの CMOS 登録を再度書き込み、即座には CMOS チェックサムを更新しません。

対処方法

システムのプラグを引き抜いてから再度プラグインし、ハードウェアをすべてリセットします。すべての USB デバイスが再表示されます。

ソフトウェアの問題

この章では、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーに関連するソフトウェアの問題について説明します。次の項目が含まれています。

- 「Solaris 10 オペレーティングシステムの問題」 (29 ページ)
 - 「Sun Installation Assistant の問題」 (32 ページ)
 - 「Linux オペレーティングシステムの問題」 (34 ページ)
 - 「Windows Server 2003 オペレーティング システムの問題」 (40 ページ)
-

ご参考： 問題の記述において特定のプラットフォームが提示されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに関係するものです。

Solaris 10 オペレーティングシステムの問題

ドライブ 2 台のシステムからドライブ 4 台のシステムに移動したドライブは、正しく動作しない場合がある (6300178)

2 台のハードディスクドライブが設置されているシステムでは、スロット 0 とスロット 1 のドライブがディスク 2 とディスク 3 として OS にマップされます。したがって、4 台のハードディスクドライブを持つシステムにおいてスロット 0 またはスロット 1 に設定されたドライブをディスク 2 台のシステムに移動すると、正しく動作しない場合があります。

一部のホストバスアダプタでは、パッチをインストールする前に Solaris 10 x86 パッチクラスタのインストールが必要 (6312352)

Sun StorEdge Entry-Level Fibre Channel のホストバスアダプタ (QLA210) などのホストバスアダプタ (HBA) の特定のパッチは、Solaris 10 x86 を実行しているシステムに最初に Solaris パッチクラスタをインストールし、システムをリブートしないと機能しません。

パッチクラスタと QLA210 のパッチをインストールするには、次の操作を行います。

1. **Solaris 10 3/05 HW1** オペレーティングシステムをインストールします (まだインストールしていない場合)。
2. 推奨のパッチクラスタをインストールします。
パッチクラスタをインストールする手順については、次のウェブサイトを参照してください。
http://patches.sun.com/clusters/10_x86_Recommended.README
3. **HBA** に対する推奨のパッチをインストールします。
たとえば QLA210 のパッチ (119131-xx) をインストールする場合：
 - a. 次のウェブサイトの指示を参照してください。
<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl\target=patchpage>
 - b. [PatchFinder (パッチ検索)] テキストボックスに「119131」と入力します。
4. システムをリブートします。

raidctl コマンドを使用できない (6228874)

raidctl コマンドを使用すると、コマンドラインインターフェイスから RAID コントローラを管理できます。しかし、raidctl コマンドは、Solaris 10 3/05 HW1 ではサポートされていないため、このコマンドを使用するとシステムがパニックに陥る可能性があります。

対処方法

MPT SCSI BIOS を使用して、RAID ボリュームを作成および管理します。

システムで複数の InfiniBand ホストチャネルアダプタカードを使用していると、Solaris 10 3/05 HW1 のインストールが失敗する場合があります (6321372)

Solaris 10 3/05 HW1 のインストール時、インストーラは 32 ビットモードで動作します。そのため、使用可能な仮想メモリの容量が小さくなります。Mellanox の InfiniBand ホストチャネルアダプタ (IB-HCA) では、通常はシステムにインストールされたカードごとに 256MB 以上の仮想メモリが使われます。複数の IB-HCA カードがインストールされていると、仮想メモリが不足してインストールが一時停止する可能性があります。

対処方法

Solaris 10 3/05 HW1 をインストールする前に IB-HCA カードを削除します。

リモートの CD/DVD-ROM からのインストールがサポートされていない

Solaris 10 は、リモートの CD/DVD-ROM ドライブのような USB マスストレージデバイスからはブートアップできません。Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラを使用する場合は、ローカルの CD-ROM/DVD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、キーボード、およびモニタが必要です。GUI にはビデオアダプタと十分なメモリも必要です。詳細については、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』を参照してください。

ブートアップメッセージ: Method or service exit timed out を無視する (6297813)

入力デバイスと出力デバイスをシリアルポート (ttya) に設定していると、ブートアップ時にコンソールに次のメッセージが表示される場合があります。

```
svc:/system/power:default:Method or service exit timed out.Killing contract 17.
```

このメッセージは問題を示しているわけではありません。

BIOS 設定メッセージを無視する

Solaris 10 3/05 HW1 のインストール時、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
/dev/diskette0:can't open - bios configuration error
```

このメッセージは問題を示しているわけではありません。

X Window サーバーのデフォルトは Xorg である (6321043)

何らかの理由により、事前にインストールされている Solaris 10 3/05 HW1 イメージをサーバーから削除した後にダウンロードまたは DVD により Solaris 10 3/05 HW1 をインストールすると、X Window サーバーを選択するように求める `kdmconfig` 画面が表示されます。Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーでは、X Window サーバーとして Xorg を選択します。

Sun Installation Assistant の問題

Red Hat Enterprise Linux 4 (RHEL 4) : Security-Enhanced Linux (SELinux) を有効にできない (6288799)

Sun Installation Assistant では、RHEL 4 のインストール中に SELinux 設定を使用することはできません。SELinux オプションの GUI は、Sun Installation Assistant CD による RHEL 4 U1 のインストール中は無効です。

対処方法

SELinux を設定するには、インストール後に `system-config-securitylevel` を実行します。

正しくない MPT ドライバが Sun Installation Assistant の基盤に含まれている (6319680)

Sun Installation Assistant は、Sun StorEdge PCI 単一チャネルカードのインストール時には機能しません。これは、Sun Installation Assistant の基本コードに正しくないドライバが設定されているためです。これは、Sun Installation Assistant だけに影響します。システムにインストールされたドライバは間違っていないです。

対処方法

Sun Installation Assistant を実行した後にカードをインストールするか、または Sun Installation Assistant を使用しないようにします。

Red Hat Enterprise Linux 3 または 4 (RHEL 3 または RHEL 4) をインストールした後に Kudzu メッセージを無視する (6290559)

RHEL は、Kudzu というハードウェア検出ツールを実行します。Sun Installation Assistant によって RHEL 3 または RHEL 4 をインストールした後、Kudzu ではイーサネットドライバを削除してから再度追加するように指示するメッセージが表示されます。

Kudzu が表示したメッセージは正しくありません。イーサネットドライバを変更する必要はありません。ハードウェアの設定を変更するように指示されたら、[Ignore (無視)] をクリックします。

ext3 ファイルシステムで、Sun Installation Assistant CD を使用して Red Hat Linux をインストールした後にエラーが報告される (6336064)

Sun Installation Assistant CD を使用して Red Hat Linux をインストールする場合、ext3 ファイルシステムでは、間違ったディスク容量の使用率とファイルシステムフルエラーが報告される場合があります。これは、CD のユーティリティによってファイルシステムが正しくアンマウントされていなかったためです。

対処方法

この問題は、Sun Download Center ウェブサイトで入手可能な Sun Installation Assistant CD の新バージョンでは修正されています。次の URL に移動し、[Downloads (ダウンロード)] をクリックします。

<http://www.sun.com/servers/entry/x4100/index.html>

古いバージョンの CD を使用してこれらのエラーが表示された場合は、コマンドラインに `tune2fs` コマンドを入力してサーバーをリブートすると、問題が解決されます。

Linux オペレーティングシステムの問題

このセクションでは、Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー上の Linux オペレーティングシステムでの既知の問題と関連する対処方法を説明します。

アップデートされたドライバをインストールする前に、QLogic ドライバをアンロードしなければならない場合がある (6312342、6314923)

QLA210 または QLA2342 オプションカード用のアップデート済み QLogic ドライバをインストールする際には、現在のドライバを手動でアンロードしないとインストールがエラーになります。これらのドライバでは、`modprobe -rv` コマンドは機能しません。

対処方法

1. 既存の QLA ドライバを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# lsmod | grep qla
```

出力は、次のようになります。

```
qla6322                129536  0
qla2xxx_conf          310536  1
qla2xxx                226960  1 qla6322
scsi_transport_fc     16384   1 qla2xxx
scsi_mod              140800  8
usb_storage,st,sr_mod,sg,qla2xxx,scsi_transport_
fc,mptscsih,sd_mod
```

2. 次に示す例のように、ドライバをアンロードします。


```
# rmmmod qla6322
# rmmmod qla2xxx
```

3. アップデートされた QLA ドライバをロードします。

トランスレーションルックアサイドバッファ (TLB) をリロードすると、一部の Linux ソフトウェアでエラーが発生 (6296473)

ご参考： この問題を緩和するために、Red Hat Enterprise Linux 3.0 (RHEL 3) のユーザーは最新の OS アップデートをサーバーにインストールすることをお勧めします (本書印刷時の最新アップデートは RHEL 4 U1)。

BIOS セットアップユーティリティの [BIOS Advanced (BIOS 詳細)] メニュー ([CPU Configuration (CPU 構成)] メニュー) には、[Speculative TLB Reload (スペキュレティブ TLB リロード)] というオプションがあります。デフォルトでは、この設定は TLB をリロードできるように有効になっています。

このデフォルト設定では、Red Hat Linux の 64 ビット版および SUSE Linux (Service pack 1 を含む) の搭載されているシステムで、次に示すようなエラーが表示される場合があります。

```
Northbridge status a60000010005001b
GART error 11
Lost an northbridge error
NB status:unrecoverable
NB error address 0000000037ff07f8
Error uncorrected
```

対処方法

このようなエラーを避けるには、TLB のリロードを無効にします。

1. サーバーをリブートし、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを起動します。
2. [Advanced (詳細)] > [CPU Configuration (CPU 構成)] メニューに進みます。
3. 矢印キーを使って [Speculative TLB Reload (スペキュレティブ TLB リロード)] オプションをハイライトし、設定を [Disabled (無効)] に変更します。

これにより、TLB のリロードが無効になります。

4. 変更を保存して、ユーティリティを終了します。

AMD PowerNow! によって、システムクロックの速度が減少する場合がある (6298500、6281771)

AMD PowerNow! 機能は、デフォルトでは BIOS で無効になっています。有効にする前に、オペレーティングシステムおよびアプリケーションで PowerNow! 機能がサポートされていることを確認してください。

PowerNow! 機能は、CPU クロック速度を変更します。タイマティックのロス、PowerNow! を有効にして現在の Linux SMP カーネルを実行している際に観察されています。このタイマティックのロスは、カーネルおよびユーザーアプリケーションでタイミングエラーを発生させる可能性があります。このような状況では、タイマーが早めにタイムアウトしたり、TOD クロックの動作が不規則に見えたりすることがあります。

対処方法

BIOS セットアップユーティリティを使用して PowerNow! 機能を無効にします。この機能の画面へのメニューパスは、[Main (メイン)] > [Advanced (詳細)] > [AMD PowerNow Configuration (AMD PowerNow 設定)] です。

Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) : USB マスストレージデバイスの初期化中に I/O エラーが表示される (6241851)

USB デバイスの初期化中、RHEL 3 では数多くの I/O エラーが表示されます。USB マスストレージドライバでは、デバイスにアクセスするために SCSI サブシステムが使用されます。USB マスストレージデバイスを接続する際、ドライバはこのデバイスを SCSI デバイスとして識別しようとします。I/O エラーは、この初期化のプローブの結果、表示されます。I/O エラーは無視することができ、USB デバイスは初期化されると正常に機能します。この問題と対処方法については、次のウェブサイトを参照してください。

https://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=156831

Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) : カーネルでデュアルコアプロセッサに関する誤った CPU 情報が報告される場合がある (6241701)

2 つのデュアルコアプロセッサが Sun Fire X4200 サーバーにインストールされる場合、RHEL 3 カーネルでは、同じ物理 ID (0) を持つ 4 つのハイパースレッディング CPU が報告される場合がありますが、各 CPU の ID は 0 と 1 になるはずですが。

Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) のような、ACPI をサポートしていない Linux OS で適切な順序でのシャットダウンができない (6278514)

Linux OS の一部 (RHEL 3 など) には、適切な順序でのシャットダウンが可能な ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) をサポートしていないものがあります。ACPI をサポートしていない Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、強制シャットダウンだけが可能です。

外部 RAID アレイが Ultra320 SCSI を通じてサーバーに接続している場合、Linux OS で重複したデバイスが表示される (6220406)

RAID アレイが Sun StorEdge PCI/PCI-X Single Ultra320 SCSI ホストバスアダプタ (Ultra320 SCSI) を使用してシステムに接続している場合、`fdisk -l` コマンドを入力すると、使用している Linux OS に応じて次のように表示される場合があります。

- アレイの各論理ユニット番号 (LUN) に対して重複したデバイス
- アレイの複数の LUN に対して 1 つのデバイス

Red Hat Enterprise Linux 3 (RHEL 3) U5 (64 ビット) : [Keyboard reset failed (キーボードリセット失敗)] メッセージを無視する (6306118)

USB キーボードを前面または背面の USB ポートに接続している場合、RHEL 3 U5 (64 ビット) を実行しているシステムでは、リポートした後、「dmesg」に次のエラーメッセージが必ず表示されます。

```
initialize_kbd:Keyboard reset failed, no ACK
```

このメッセージは問題を示しているわけではありません。

SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9) 64 ビット版：CPU 速度が誤って報告される (6287519)

SLES9 を実行しているシステムでは、PowerNow! オプションを有効にしていると、`/proc/cpuinfo` で CPU 速度が誤って報告される場合があります。最高速度が報告されない場合があります。

対処方法

BIOS セットアップユーティリティを使用して PowerNow! 機能を無効にします。この機能の画面へのメニューパスは、[Main (メイン)] > [Advanced (詳細)] > [AMD PowerNow Configuration (AMD PowerNow 設定)] です。

SUSE Linux Enterprise Server 9：Kirkwood RPM 構築に失敗 (6312670)

SLES9 環境で、Kirkwood ドライバ RPM 構築の失敗が観察されています。これは、Kirkwood ドライバと SLES カーネルとの互換性がまだなかったためです。

対処方法

次の対処方法の1つを使って、使用しているカーネルのバージョンに応じて新しいKirkwood ドライバをインストールします。

■ 2.4 カーネルの場合：

1. リリースされている **1.0.95.X SRPM** を、**Sun Download Center** または **Kirkwood ドライバ CD** からインストールします。
2. **1.0.100.3 RPM** を構築し、新しいドライバ (`rpm -U`) にアップグレードします。
3. **1.0.100.3** ドライバをクリーンシステムにインストールします (**ixge** モジュールがインストールされたことがないと仮定)。

■ 2.6 カーネルの場合：

新しくインストールされたシステムで、**1.0.100.3** ドライバを構築／インストールします。

2.6 カーネルに対するサポートはこのリリースで導入されたため、インストールされた既存モジュールはないことに注意してください。

SUSE Linux Enterprise Server 9：リブートの後、マルチパスドライバが機能しない (6332988)

SLES9 SP1 マルチパスドライバ (mdadm) は、ホストをリブートすると機能しません。

対処方法

現時点ではありません。現在、根本的な原因を調査中です。

Kirkwood インターフェイスで MTU が 9K に設定されている場合、サーバーが Sun Fire X4100 サーバーをリブートする必要がある (6335741)

Linux 環境で Kirkwood インターフェイス上をネットワークトラフィックが通過するとき、Sun Fire X4100 サーバーが自然にリブートする必要があることが判明しています。この問題は、MTU が 9K に設定されている場合にだけ観察されています。

対処方法

現時点ではありません。現在、根本的な原因を調査中です。

SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9) 64 ビット版：スロット 0 に接続された、サポートされている HBA カードによってシステムがブートしない (6307424)

SLES9 を実行しているシステムでは、ホストバスアダプタ (HBA) カードがスロット 0 に接続されていると、システムをブートできない場合があります。これは、SLES9 は IDE および SCSI デバイスをスキャン順序でエミュレートし、BIOS は PCI デバイスを昇順にスキャンするためです。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. NIC
2. スロット 0
3. SAS
4. スロット 2

5. スロット 3
6. スロット 4
7. スロット 1

システムに 1 つのドライブしかない場合、そのドライブは `/dev/sda` としてエミュレートされます。外部デバイスを後でスロット 0 の HBA カードに接続すると、そのデバイスは `/dev/sda` としてエミュレートされ、内部デバイスは `/dev/sdb` としてエミュレートされます。しかし SLES9 ブートデバイスは、OS のない外部デバイスである `/dev/sda` を指定するため、システムをブートできません。

この問題は、HBA カードがスロット 1～4 に挿入されている場合には発生しません。これは、これらのスロットが内部の SLI コントローラよりも後にスキャンされるからです。この問題は、サーバーまたは HBA カード特有のものではありません。

対処方法

サポートされている HBA カードをスロット 1～4 に挿入し、システムをリブートします。また、次の一般的なガイドラインにも従ってください。

- SCSI ドライブをあちこち移動しない。
- IDE ドライブのバス接続を変更しない。
- 後で `grub` または `vi /etc/fstab` を実行しなければならなくなり、これらのガイドラインが守られない場合に備えて、レスキューディスクを準備する。

Windows Server 2003 オペレーティング システムの問題

RAID ボリュームの機能低下によってブートアップ時間に影響が発生 (6297804)

RAID アレイのディスクに障害がある場合、Windows Server 2003 のブートアップ時間が著しく遅くなる (20 分程度) 場合があります。Windows とファームウェアによる再試行が遅延を引き起こします。障害のあるディスクは、SAS トポロジのコントローラによって認識される場合がありますが、RAID のプロパティでは認識されません。

RAID が 1 番目のストレージデバイスとして認識されないと、LSI RAID アレイに OS をインストールできない (6297723)

Windows Server 2003 のインストールでは、1 番目のストレージまたは既存のパーティションを使用する必要があります。次のような場合には、Windows Server 2003 をオンボード LSI RAID アレイにインストールすることはできません。

- アレイが 1 番目のストレージデバイスとして Windows に認識されていない。
- RAID ストレージ以外にディスクに別の既存パーティションがある。

再起動コマンドを発行した後に Java Remote Console (Java リモートコンソール) に出力が表示されない (6301444)

再起動コマンド ([Special Administrative Console (特殊管理コンソール)]-> [Restart (再起動)]) を使用してシステムをリセットし、リブートした場合、Java Remote Console (Java リモートコンソール) に出力が表示されない場合があります。BIOS のメッセージは、ホストシリアルコンソールに表示され、Java Remote Console (Java リモートコンソール) には表示されません。

対処方法

この問題を解決するには、システムを再び再起動します。

外部ディスクでの OS のインストールでは、内部ディスクのパーティションが必要 (6238985)

Windows Server 2003 を外部デバイスにインストールする前に、内部ディスクにセットアップファイル用のパーティションを作成しておく必要があります。Windows Server 2003 を内部ディスクにインストールする場合は、パーティションは必要ありません。

AMD PowerNow! 機能が有効な場合、警告 LED および電源障害 LED が点灯する場合があります (6310814)

AMD PowerNow! 機能は、デフォルトでは BIOS で無効になっています。有効にする前に、オペレーティングシステムおよびアプリケーションで PowerNow! 機能がサポートされていることを確認してください。

Windows Server 2003 環境で PowerNow! を有効にすると、タイマティックのロスが発生して CPU 電圧が下がることにより、警告 LED および電源障害 LED が点灯する場合があります。

対処方法

BIOS セットアップユーティリティを使用して PowerNow! 機能を無効にします。この機能の画面へのメニューパスは、[Main (メイン)] > [Advanced (詳細)] > [AMD PowerNow Configuration (AMD PowerNow 設定)] です。

Windows Server 2003：適切な順序でのシャットダウンと電源オフに失敗 (6293118)

Windows Server 2003 OS を実行しているシステムが画面ロック状態のときに、適切な順序でのシャットダウンと電源オフのオプション ([Remote Control (リモートコントロール)] > [Remote Power Control (リモート電源制御)]) を使用してシステムをリモートでオフにしようとする、シャットダウンは行われず、サービスプロセッサで次のエラーが発行されます。

```
ChassisCtrl.c : Invalid Chassis task parameter
```

Windows Server 2003 では、管理者としてログインした場合のみ、適切な順序でのシャットダウンを行うことができます。これは、Windows Server 2003 の正常な動作です。

対処方法

Java Remote Console (Java リモートコンソール) を使用して、管理者としてログインして適切な順序でのシャットダウンを発行します。

ドキュメントの問題

本章では Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーのドキュメントの問題について説明し、次の項目を扱います。

- 「ヘルプシステムの問題」 (43 ページ)
- 「『Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers OS Installation Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』の問題」 (44 ページ)
- 「『Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers System Management Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーシステム管理ガイド)』の問題」 (45 ページ)
- 「『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーセットアップガイド』の問題」 (46 ページ)

ヘルプシステムの問題

Mozilla を使用して開いた場合、『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーヘルプ』完全版でスクリプトの中止についてのメッセージが表示される

『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーヘルプ』(831-0602-xx.zip) 完全版をダウンロードしてインストールすると、Mozilla でヘルプシステムを開いた時に次のメッセージとプロンプトが表示されます。

A script on this page is causing mozilla to run slowly. (このページのスクリプトにより Mozilla の速度が遅くなっています。) If it continues to run, your computer may become unresponsive. (実行を続けると、コンピュータが応答しなくなる可能性があります。)

Do you want to abort the script? (スクリプトを中止しますか?)

この原因は、ネットワークが混雑している場合、サイズの大きいヘルプシステムのコンポーネント（検索機能など）はすべて、ダウンロードに1分以上かかる場合があるためです。

対処方法

プロンプトに対して [OK] をクリックすると、ページが表示されます。

または、検索機能など、一部の機能を持たないウェブ版のヘルプを表示させることもできます。ウェブ版ではエラーメッセージは表示されません。ウェブ版を表示するには、次の URL の 819-4883 を参照してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/x4100/index.html

『Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers OS Installation Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』の問題

『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 のサーバーヘルプ』は、HTML 版および PDF 版があり、内容は同じです。このセクションで述べる問題は、次のタイトルを持つヘルプのどちらの版でも発生しています。

- 『Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers OS Installation Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』 (PDF:819-1158, HTML: 831-0602)

3つのヘルプ項目で、ドライバイメージファイルの参照先を更新

次のヘルプ項目では、リソース CD にあるドライバイメージファイルの参照先が誤っています。

- Red Hat Enterprise Linux ドライバ CD を作成する方法
- リモートコンソールアプリケーションによる SLES9 OS のインストール方法

- リモートコンソールアプリケーションによる Red Hat Enterprise Linux OS のインストール方法

誤った参照先と、正しい参照先は次のとおりです。

- 誤った参照先：DriverUpdate.img
- 正しい参照先：DriverUpdate.iso

SLES9 ヘルプ項目のコマンドシNTAX更新

ヘルプ項目「SLES9 SP1 の PXE インストールイメージを PXE サーバー上に作成する方法」のセクション「作業内容」に記載されたステップ 2 に誤りがあります。

誤った参照先と、正しい参照先は次のとおりです。

- 誤った参照先：

```
# cp -a /mnt/cdrom/support/pxeboot/sles9-pxefiles.tar.gz /tmp/.
```
- 正しい参照先：

```
# cp -a /mnt/cdrom/support/pxeboot/sles9-pxefiles.tar.gz /tmp
```

『Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers System Management Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーシステム管理ガイド)』の問題

『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 のサーバーヘルプ』は、HTML 版および PDF 版があり、内容は同じです。このセクションで述べる問題は、次のタイトルを持つヘルプのどちらの版でも発生しています。

- 『*Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers System Management Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーシステム管理ガイド)*』 (PDF:819-1160, HTML: 831-0602)

SP ファームウェアアップグレードの前にセッションタイムアウトの設定が必要

ヘルプ項目「SP ファームウェアをアップグレードする方法」の手順にある「開始前のご注意」には、次の注を入れる必要があります。

注：アップグレードの手順には約 20 ～ 30 分かかりますがデフォルトのセッションタイムアウトは 15 分であるため、セッションタイムアウトを最低 3 時間に設定する必要があります。最低 3 時間に設定すれば、アップグレード手順の中で何らかの中断があるとアップグレードのタイムアウトが発生します。

『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーセットアップガイド』の問題

『*Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers Setup Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーセットアップガイド)*』の情報に関して、英語 PDF 版 (819-1155-10) 発表以降の変更有り。これらの問題は、バージョン 10 の後継となるバージョン 11 ですでに修正されています。

新しい埋め込み式電源ボタンのデザイン

ガイドの 16 ページにある前面パネル図にある電源ボタンのデザインが変更されています。誤って押されることがないように、ボタンは埋め込み式になりました。電源ボタンを押す場合は、ボールペンなど先の尖ったものを使用します。

サーバーの電源オフ方法の更新

16 ページで説明されている、主電源モードからサーバーを電源オフする方法では、適切な順序でのシャットダウンと緊急シャットダウンの違いが説明されていません。この説明を次のように訂正します。

サーバーを、主電源モードからスタンバイ電源モードにシャットダウンする方法を選びます。

- 適切な順序でのシャットダウン：前面パネルにある電源ボタンを、ボールペンなどの先の尖ったもので押します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、これで適切な順序での OS シャットダウンが実行されます。ACPI が有効な OS を稼働していないサーバーは、即座にスタンバイ電源モードにシャットダウンされます。
- 緊急シャットダウン：電源ボタンを 4 秒間押し続けると、主電源がオフになりスタンバイ電源モードになります。主電源がオフになると、前面パネルにある電源 / OK LED が点滅を始め、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。

『Solaris10 OS プリインストールガイド』への参照を追加

セットアップガイド第 2 章の最後のページでは、オペレーティングシステムをインストールするために参照すべきドキュメントを示しています。発表後、Solaris10 オペレーティングシステムがこれらのサーバーにプリインストールされるようになりました。このため、参照するドキュメントは次のように変更になります。

ILOM SP のネットワーク設定を行った後、プリインストールされた Solaris10 オペレーティングシステムを設定するか、サポートされている Linux または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバをインストールできます。

- プリインストールされた Solaris10 オペレーティングシステムを使用する場合は、『*Solaris 10 OS プリインストール Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーガイド*』 (819-5373-01) を参照してください。
- サポートされている Linux または Windows OS と必要なドライバのインストールについての詳細は、オンラインヘルプシステムの「オペレーティングシステムのインストール」または『*Sun Fire X4100 and Sun Fire X4200 Servers Operating System Installation Guide (Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)*』 (819-1158) を参照してください。
- このサーバー特有の OS に関するその他の情報について、『*Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーリリースノート*』 (819-5190-01) も参照してください。

索引

B

BIOS の問題、 21 - 27

I

ILOM CLI。「Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) コマンドラインインターフェイス」
参照

ILOM Web GUI。「Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI」参照

J

Java ES ソフトウェア、 2

Java Remote Console (Java リモートコンソール) の問題、 17 - 19

L

Linux オペレーティングシステムの問題、 34 - 40

LSI ファームウェアの問題、 9 - 11

R

Red Hat Enterprise Linux、 13, 18, 32, 33, 35, 36, 37

S

SELinux、 32

Solaris 10 3/05 HW1 オペレーティングシステム、
1 - 2

Solaris 10 オペレーティングシステムの問題、 30 - 32

Sun Installation Assistant の問題、 32 - 33

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web GUI の問題、 13, 16

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) コマンドラインインターフェイスの問題、 16 - 17

Sun Java Enterprise System (Java ES) ソフトウェア、
2

Sun N1 System Manager ソフトウェア、 2

SunSolve ウェブサイト、 ix

Sun テクニカルサポート、リンク先、 xiii

SUSE Linux Enterprise サーバー、 13, 35, 38, 39

W

Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題、 40 - 42

あ

アクセシビリティの問題、 18 - 19

お

オペレーティングシステムの問題

linux、 34 - 40

Solaris 10、 30 - 32

Windows Server 2003、 40 - 42

オペレーティングシステムの問題。

「Red Hat Enterprise Linux」、「SUSE Linux Enterprise Server」も参照

き

機能、新、 1 - 2

さ

サービスプロセッサの問題、 12 - 19

し

新機能、 1 - 2

シンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) の
問題、 15 - 16

せ

製品アップデート、 xii

つ

追跡番号、 ix

て

テクニカルサポート、リンク先、 xiii

と

ドキュメントの問題、 43 - 47

ドライバアップデート、 xii

な

ナレッジベース、リンク先、 xiii

は

ハードウェアの問題、 5

ふ

ファームウェアアップデート、 xii

ファームウェアの問題、 9 - 11

ブラウザの問題、 43

へ

変更リクエスト番号、 ix

ま

マニュアル、オンライン、 xi